

都道府県名	石川 県
-------	------

学校の概要

学校名	穴水町立穴水小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	53	66	61	57	58	70	1	366	

研究の概要

1 研究主題

・ 主 題

心豊かに活動する子

～ 少人数授業における効果的な算数指導 ～

・ テーマ設定の理由

本校の研究主題は、「心豊かに活動する子 ～少人数授業による効果的な算数指導～」である。新しい教育課程では、「確かな学力」と「心の教育」を柱に据えている。私たちは、豊かな心、即ち相手の気持ちを考えて活動できる子どもの集団の中で、はじめて自ら学ぶ意欲がわき、確かな学力が身についていくものと考えている。

本校の児童は素直に明るくのびのびと育っている。友だちとも仲が良く遊びも活発である。しかし、学習面では、自分の考えをもっていても発表が苦手である。また、友だちの意見を認め合ったり、分からない友だちを励まし合ったりする姿もあまり見られない。

より意欲的に学び確かな学力を身につける手だてとして、少人数授業をとり入れた。児童一人ひとりに対して、教科目標の到達状況を的確に把握し、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るために、教科の評価を充実させたい。そこで、教科や総合的な学習を通し、人や自然との関わりの中で、今までに引き続き「豊かな心の育成」を基本に据え、教師と子ども、子どもと子どもの関係にも焦点を当てながら主題に迫りたい。

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年と教科を次のようにした。

全学年の算数科において、学力の定着は十分満足できる・おおむね満足できる児童が9割に達している。しかし、1学級に2、3名は、きめ細かな指導が必要な児童がいる。習熟度別学習に取り組む中で、補充的な学習や発展的な学習などを行い、個に応じた指導をすることで、一人ひとりの基礎・基本の定着と学力向上を図りたいと考えた。そこで、全学年算数科で実施することとした。

1・2・3・4・5・6学年の算数科で取り組む。

単位となる集団...学級単位 : 1・2・3・4・6学年(1学級2コース)

学年単位 : 5学年 (1学年3コース)

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>主題 心豊かに活動する子</p> <p style="text-align: center;">- 少人数授業における効果的な算数指導 -</p> <p>仮説</p> <p>仮説 1</p> <p>・互いに認め合ったり、励まし合ったり喜びを分かち合える学級づくりを基盤にすれば、一人ひとりが生き、自己存在性を感じながら心豊かに学び合うことができるであろう。</p> <p>仮説 2</p> <p>・単元の特性を生かし、多様な指導形態をとったり、課題解決に向けた4段階の学習過程を組んだりすれば、意欲的に学び合うことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p style="padding-left: 2em;">指導形態・指導法の工夫</p> <p>* 多様なコース別指導形態の導入</p> <p style="padding-left: 2em;">・単元により、TT・等質グループ・習熟度別グループをとり入れている。</p> <p style="padding-left: 2em;">ホップ・ジャンプコース(1・2・3・4・6学年)</p> <p style="padding-left: 2em;">ホップ・ステップ・ジャンプコース(5学年)</p> <p>* 習熟の程度に応じた指導を行うための児童の学力を把握する。</p> <p style="padding-left: 2em;">4月には、各学年は観点別の学力テストを実施した。また、6年生においては、5月に基礎学力テストを実施した。なお、9月には、2・3・4・5学年において、4教科の学力テストを実施した。</p>																								
	<p>領域別の十分満足の割合(算数科)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲</td> <td>89%</td> <td>80%</td> <td>76%</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>数学的な考え</td> <td>87%</td> <td>62%</td> <td>86%</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>表現・処理</td> <td>97%</td> <td>85%</td> <td>88%</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>94%</td> <td>85%</td> <td>86%</td> <td>77%</td> </tr> </tbody> </table> <p>6学年算数科の学力テストについては、石川県の正答率を通過していたが、領域ごとに分析することで、「量と測定」についての領域がやや弱いことが分かった。日々の授業の中で、振り返りや操作活動の取り組みを行い、授業の改善を図っている。</p>		2年	3年	4年	5年	関心・意欲	89%	80%	76%	82%	数学的な考え	87%	62%	86%	42%	表現・処理	97%	85%	88%	84%	知識・理解	94%	85%	86%
	2年	3年	4年	5年																					
関心・意欲	89%	80%	76%	82%																					
数学的な考え	87%	62%	86%	42%																					
表現・処理	97%	85%	88%	84%																					
知識・理解	94%	85%	86%	77%																					

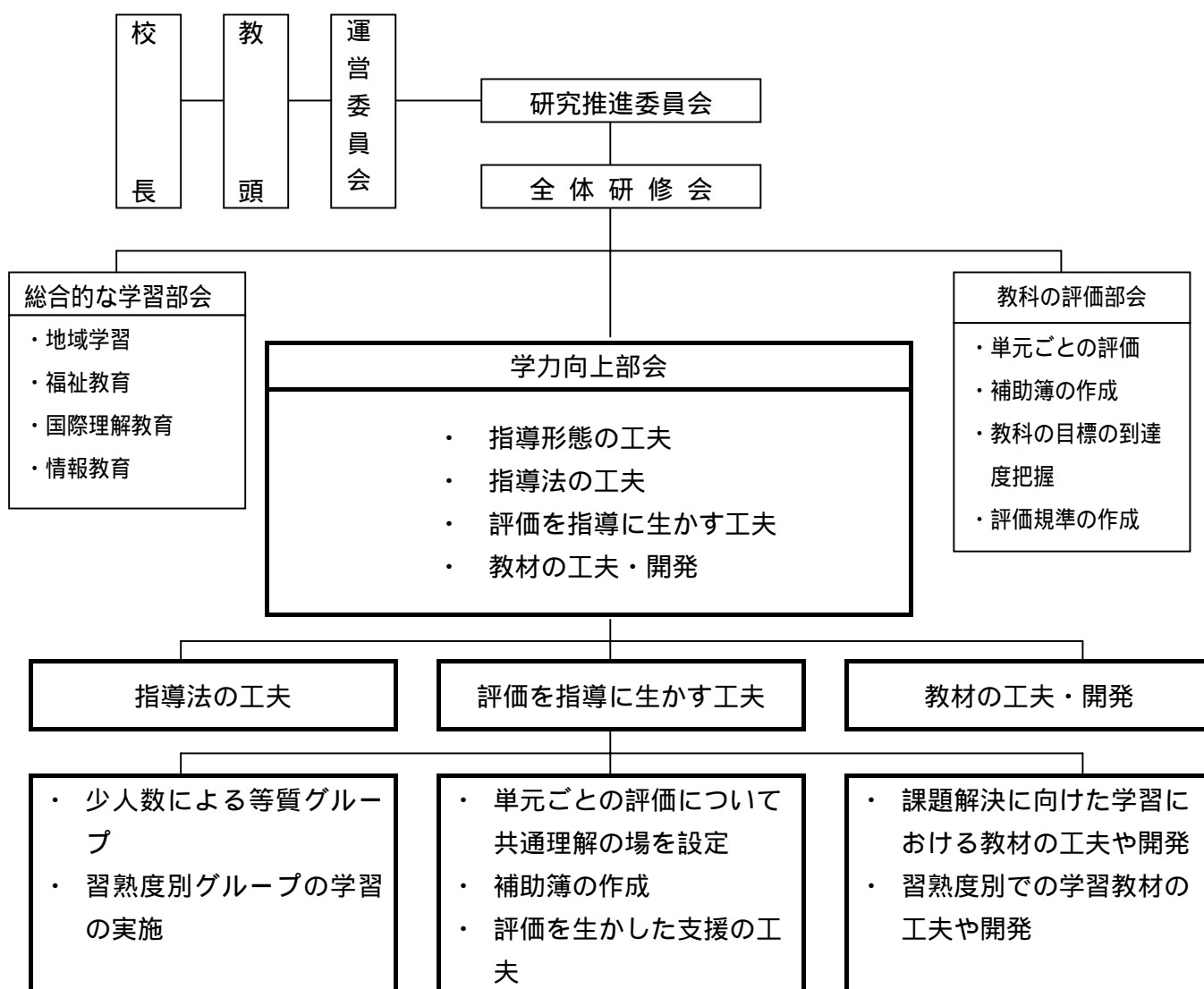
	<p>* 教材研究や学習の仕方の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の学習の流れを4つの学習活動(つかむ 考える 深める 振り返る)の段階を組み、それぞれの段階で児童・教師の意識化を念頭に指導を充実させている。また、それぞれのコースで学習活動4段階の流れの中に、既習学習の生かし方・課題づくり・操作活動・支援の方法・・・等を工夫して授業を進めている。 <p>評価を指導に生かす工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に応じた学習を行うために、単元の導入前に診断的評価を行い、既習内容の理解度を診断し指導計画の資料にする。 ・単元の学習を進める中で形成的な評価を生かすための補助簿を作成する。 ・学習の最後に総括的な評価を組み込み、児童の学習の到達度をみて補充学習を行う。 <p>教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース別での個に応じた学習プリントの作成を行う。 ・学習のつながりや広がりを明確にする。
--	---

(補助簿例)(4学年 単元名 「はしたの大きさの表し方を考えよう」)

月・日		評価規準		①1ℓに満たないはしたの大きさの表し方に関心をもつ。		②1ℓに満たないはしたの大きさの表し方を考える		③小数の減法の筆算ができる。		④小数の位取りや用語を理解している。		⑤小数の加法の筆算ができる。		⑥整数の計算に帰着して小数の加減計算を考えている。		⑦小数の位取りや用語を理解している。		⑧小数の減法の筆算ができる。		⑨身の回りのどんなところに小数が用いられているか探ろうとしている。		関心 意欲 態度	思考 判断	表現 処理	知識 理解	テスト
クラス	評価方法 (観察・発言・プリント・テストなど)																									
1																										

	<p>主題 心豊かに活動する子</p> <p>～ 心豊かな学級風土づくり ～</p> <p>～ 多様な指導形態による効果的な学習指導 ～</p> <p>平成16年度</p> <p>○ 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の教科を拡大「算数科」3・4・5・6年(1学年を3コース) 「国語科」3・4年(1学級2コース) ・教科担任制「社会科」5・6年「音楽科」5・6年「理科」5・6年 <p>○ 研究の内容</p> <p>指導形態・指導法の工夫</p> <p>評価を指導に生かす工夫</p> <p>教材の工夫・改善</p> <p>人・もの・自然とのかかわりを大切にした体験的な学習</p>
--	--

(3) 研究体制の実際



本校において、学力向上フロンティア事業に関しては、「学力向上部会」を中心に実践研究を進めている。それらの成果や課題については、研究推進委員会で検討し、全体の研修会で共通理解を図りながら、取り組みを行う体制をとっている。

また、今年度より、研究・指導体制を工夫改善し、「総合的な学習部会」「学力向上部会」「教科の評価部会」の3部会を組織した。それぞれの部会が協力し合って研究を進めている。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

指導法の工夫

- ・ 多様なコース別の学習形態をとることで、つまずきの原因が見え易く、個に応じた学習を進めることができた。
- ・ 「授業がよく分かる、どちらかといえば分かる」と答える児童が93.5%いる。「算数が好きになった。よく分かるよ」など、学習に対する意欲の高まりが見られ、テ

ストの結果も一人ひとりに伸びが見られるようになった。

評価を指導に生かす工夫

- ・アンケート，レディネステスト，事後テスト，学力テストなどの結果を分析することで，個に応じた指導に努めることができた。
- ・自己評価により児童が学習の成果を実感し，さらなる学習意欲へとつながった。
- ・評価規準を明確にした補助簿を作成し，具体的に評価することで個に応じた指導につながった。

教材の工夫・開発

- ・教材研究を複数の教師で行うことでねらいの理解が深まり，そのことが指導に生かされた。
- ・コースに応じた単元のつながりや広がりをも明確にしたり，個に応じた学習プリントを作成したりすることで，児童の思考にそった授業を進めることができた。

2 今後の課題

指導法の工夫

- ・教材研究を深め学力向上に努めてきたが，今後は1時間の流れの中で重点となる段階を見極めて学習を進めたい。

評価を指導に生かす工夫

- ・評価規準から判断基準を明確にしていきたい。

教材の工夫・開発

- ・発展的なコースでは，ドリル学習やプリント学習が先行したことへの解決に向けた。

学力等把握のための学校としての取り組み

1 学力調査

2 学年，3 学年，4 学年，5 学年，6 学年・・・4 月，まとめのテスト

6 学年・・・5 月，基礎学力テストの実施

2 学年，3 学年，4 学年，5 学年・・・9 月，4 教科学力テスト実施

2 学年，3 学年，4 学年，5 学年・・・3 月，算数科学力テスト実施の予定

2 学年，3 学年・・・3 月，C R T（国語科学力テスト）実施の予定

2 意識調査

児童向けアンケートの実施（6 月，9 月，12 月）

少人数指導では，授業が分かることを中心に据えている。

保護者向けアンケート（10 月）

授業参観後の保護者の感想（11 月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

P T A 総会： 「少人数学習」についての説明（4 月）

授業参観： 少人数授業の公開（11 月・2 月）

研修会： 講師 金沢大学助教授 松原 道男氏（12 月）

学校だより・学級通信で、随時保護者に知らせる。

町指定の研究発表会で習熟度別授業を公開の予定（平成16年10月予定）

【新規校・継続校】	・15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 ・13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	・少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	・算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		・有	無	